

【中区】平成 30 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 30 年 6 月 1 日（金） 11 時 20 分 ～ 12 時 15 分
場 所	中区役所 6 階 特別会議室
出席者	<p>【座長】 福島直子議員</p> <p>【議員：2 名】 松本研議員、伊波俊之助議員</p> <p>【中区：27 名】 竹前大区長、安藤浩幸副区長、 岩田眞実福祉保健センター長、霧生哲央福祉保健センター担当部長、 太田孝中消防署長、永瀬一典中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 30 年度中区個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題 1 平成 30 年度中区個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>伊波議員：防犯カメラの設置について、現在、神奈川県との状況はどのようになっているのか。</p> <p>真船地域振興課長：神奈川県においては、2019 年から 2020 年までを重点の年と考えている。それを前倒しで、2018 年度までに実施したいというところまでは聞いている。今後の予算の状況は、まだ分からない。市民局では、神奈川県の状態を見ながら、積極的に対応していきたいという気持ちは持っているという。神奈川県に引き続き予算をつけてもらえるように、市民局に頑張ってもらいたい。</p> <p>伊波議員：今年度の申込状況はどうか。</p> <p>真船地域振興課長：今年度は 6 月末までが申込期限となっているので、まだ全部は出そろっていない。</p> <p>伊波議員：もう申込がきているのか。</p> <p>真船地域振興課長：来てはいるが、何件申請があるかは、この場では分からない。</p> <p>竹前区長：昨年は 6 台申請して、6 台認められた。特に、2020 年のオリンピックの会場になるということもあり、各地域の防犯カメラ設置に対するニーズが高まっているが、設置台数が非常に少ない。申請しても、すべてはつかないので、今年はどうしようかと言っている地区の会長さんたちのお声も聞いている。2020 年までは市民局と神奈川県との補助制度があるが、市民局においては、それ以降は分からないので、その時点で新たな制度の検討が必要となるかもしれないと言っている。基本的には今のスキームで 2020 年までいきたいということを行っているが、地域のニーズは少し違う。特に中心部においては非常に高い要望があるから、市民局に対しては、新たな制度を作ることも検討すべきではないかとも言ってるが、なかなか腰が重い。予算の話もあるということで、腰が重いところがある。中区としては、去年もそういう主張でお願いをして声を上げてきた。今年度は、30 年度予算で、オリンピックやワールドカップの会</p>

場都市である港北区とか中区とか西区あたりが、その他の区とは違うという別枠で共通要望を出すことを区長同士で話したが、そのスキームの構築に至らなかった。来年度の予算要求に向けて、どういうことができるか、検討していきたい。

伊波議員：17 ページの地域包括ケアシステム推進事業において、認知症支援というかたちで講演会が実施されるということだが、講演会を実施する曜日、時間帯について、こういう講演会に参加する対象は、介護世代の方々をターゲットにすることもあるのかと思うが、今、何か計画的なものがあるのか。

和田高齢・障害支援課長：今年度の事業については、対象を認知症の高齢者を実際に介護されている方の負担を軽減する趣旨で考え、具体的には平日の昼間を設定している。先生の御指摘もありがとうございますので、今後は、対象者が参加しやすい開催日時を検討していきたい。

伊波議員：平日の昼間だと、例えば認知症を抱えている御家族にしても働いているのでは。介護は、これからどんどん在宅となって、御家族の方々は、いざとなったときに動転するから、負担を少なくする。皆さん、本当にいろいろ一生懸命やっただけなので感謝しているが、やったという実績ではなく内容のある効果的な講演会をやっただけでいい。

和田高齢・障害支援課長：いつ、どの時間に開催しても参加できない方はいらっしゃると思うので、講演会の要旨をまとめたものをホームページにアップするなど、丁寧にフォローしていければと思っている。

伊波議員：29 ページの多文化共生推進事業では、外国の方が、こちらに長く御縁があって、いろいろとフォローアップをされてると思う。その方々が勤めている会社、事業者の方に対して、職場からのサポートや、横浜の場合は商工会議所があるが、そういったところに職場からのフォローアップを強制できないと思うが、あくまでもプライベートだから自分で役所とかに行くという感じになっている。プライベートと仕事は別だという考え方もあるのかもしれない。けれども、こういう人が働いている会社もしっかりとフォローアップをしてくれるよう、これからは、企業の皆さん、事業所の皆さんに対して、この中区の外国の方々の大勢というものをしっかりと分かってもらうことが必要になってくると思っているが、どうか。

落合区政推進課長：現在、年4回、多言語広報というものを出しているが、読んでいただきたい方に届かないというのはある。今回、ウェルカムキットというものを作り、区役所で配る予定だが、それだけでは届かない。いかにアプローチしたい方につなげていくかということで、働いているところというのは非常に大きいのかなと思う。商工会議所に相談して、つながるようにできないかと思っている。また、中国やベトナムの方が今、非常に多く転入されている。そういう方に、例えば日本語学習の学校や教会などにアプローチしようかと思うので、広く外部に対しても協力を求めていきたいと思う。

竹前区長：商工会議所とのつながりもある。みなと工業会など、いろんな企業、団体にチラシを配って、こういう相談に来ますと。できれば、先生が、おっしゃるように仕事を少し遠慮していただいて相談時間を作っていただいているの支援も、お願いするということもあり得ると思う。少し検討させていただきたいと思う。

伊波議員：お子さんが学校に通っている家庭だと学校の中でいろんな教育があって、ごみの出し方とかが家庭に持ち込まれてくる。けれども、お子さんがいらっしやらない、あるいは、お子さんがもう大きくなっての方は、どうしても疎外感があるので、職場の方とのフォローアップができればできると、なおのこといいのかと思う。以上です。

松本議員：何点か、教えていただきたい。賑わいづくりということは、本当に大切なことで、ぜひ、取り組んでいただきたい。今まで、陸の孤島と言われていたが、何とか活性化を100周年に向けてということで取り組んでいただくことは、絶対に必要なことだと思っているので、お願いしたいと思う。その中で、今までやってきた第4南部地区の元気づくりと今回の賑わいづくりとはリンクはしているのか。

真船地域振興課長：第4南部地区の元気づくりは、非常に活発にいろいろな活動をしていただいている。今回の賑わいづくり事業は元気づくりとは別のものなので、今やっただけでいる取組そのものをうまく取り込んだり、連携していったりということも、想定して動いていきたいと思っている。例えば、この事業が始まることによって、元気づくりでやってきた事業がやりづらくなったりするようなことが起こってはならないと思っている。連携して、もっと、いろんなことができるように進めていきたいと考えている。

松本議員：今回、そのコンサルの業者を6月くらいに選定、契約するということが、元気づくりのコーディネーターとは全く別の人になるのか。

真船地域振興課長：今回、6月くらいに選定と書かせていただいているが、場合によっては少し遅れるかもしれない。まずは、どういう方たちに意見を聞くのがいいかということも、地域の皆様にお話をして、やっていきたい。本牧には、いろいろな魅力があると思っているが、その魅力の一つにまとめるのではなく、いろいろな魅力をうまく組み合わせ、本牧というのは、こんなにたくさん魅力があるところだと発信をしていくことも必要かと考えている。発信を主体にしていくと例えばメディア戦略みたいなものにもすることも想定されると思う。街づくりとして、どうやって取り組んでいった方がいいかというような考え方もあるかと思う。いずれにしても、今年度は、まず、地域の皆様と、今年度どこに目標を置いて重点的にやっていこうかという話をした上で、必要なコンサルの方向性というものを決めていきたいと思っている。そんなに長く検討に時間をかける気もないが、今想定しているのは、広報PRに強い専門の方にも入っていただくことも想定している。街づくりかもしれないし、メディア

戦略かもしれない。現状では、そう考えている。

竹前区長：2月のときにも、この本牧賑わいづくりとは、どのエリアを中心にと
いう御質問がありました。本牧通りを中心にとというようなお答えをしたと思
う。本牧通りと言っても広く、連合で言うと四つくらいある。4南のものも一
つの事業としては取り扱うものがあるかもしれないが、この賑わい推進会議と
いうのは4連合もあるような大きなエリアで、かつ麦田の向こうにある少し
今、沈みがちなというか、昔の栄光をもっと輝かしたいというような思いが出
るようなエリアに、全体をふかんするような大きな委員会みたいなものを作っ
て、その下に、例えば、お馬流しがあったり、本牧ジャズがあったり、それか
らいろんな元気づくりの取組があったりする。いろんなものをどんどん出して
いただいて、本牧の魅力としてアピールをする。事業が少しばらばらに行われ
ているような感じもあるし、地元の方々も、まだまだいろんな御意見が多様に
混じり合うエリアなので、できればアットホームというような土俵を作って、
ここにみんなが参加して、ここでみんなで一体になって、本牧全体を盛り上げ
ようというような、エリアマネジメントではないけど、そういったボードを作
ろうというのが、まず一つ推進委員会のイメージなのかと思ってる。非常に多
様な方がいらっしゃるので、一枚岩になるということは簡単ではないと思っ
てるけれども、少し調整をしていきたい。関内、関外は、もうそれなりに今やっ
ていただいているけれども、本牧の方々は、やりたいけれども、なかなかそう
いう溝が埋まらない。やりたいことがうまくできない。若い人たちが閉塞感も
あるというようなこともある。多様な方々が、ここに賛同いただいて参加する。
ここがしっかりとしたエンジンになっていくように、そんなイメージができれ
ばいいかというような思いもある。まだ、そこが描ききれていないところもあ
るけれども、先生方にいろいろと御意見をいただきながら進めていきたい。

松本議員：各地域の人たちも、頑張っているところもあるが、千差万別。それを
うまく取りまとめていく。これができることによって、余計ばらばらになり、
意思の統一ができないということにならないように、うまく調和が図れるよう
な仕組みをぜひ作ってもらいたい。その中では、このコンサルの役割が、すご
く大切だと思う。この人が一方通行で情報を発信してしまうと、他の人は全然
ついてこない。最初のボタンの掛け違いだけは絶対にならないように進めていた
だきたい。

次に、グランマ保育園は、今回、拡充ということだが、保育園の施設開放や
育児相談を利用されている在園児以外の保護者の方は、今現在どのくらい、い
らっしゃって、その方々の反応、例えば、非常に善意に感じていい相談相手な
なっていただけるとか、もう少しこうしてほしいというような要望というの
は、保護者の方から出てきているのか。

米澤こども家庭支援課長：育児相談の延べ相談件数は、年間4,145件となってい
て、私たちの思った以上に結構あると感じている。また、施設開放は、年間で

8,228 人の方が御利用いただいている。ということで、結構な数の方に使っていただいている。利用者の方からの評判、お声については、もちろん育児相談などは困ったことがあって相談される方なので、聞いてもらって気持ちが軽くなったとか、助かったとか、具体的な支援先のアドバイスがあって実際につながってる部分もあるのでありがたいという話を聞いている。

松本議員：利用者というのは、保育所、横浜型保育室を利用されていない家庭で子育てをしている方の件数か。

米澤こども家庭支援課長：その通り。

松本議員：家庭で育児をしている方々も、悩みを持っている。このグランマ保育園というのは、非常に大切な役割を担ってもらっていると思う。一般の保護者の方に対する、グランマ保育園の相談業務、施設利用、一時保育の情報発信は、区役所の中からの発信だけなのか。

米澤こども家庭支援課長：区役所からも発信しているし、園、施設でも発信している。

松本議員：園からの発信は、どのようにやっているの。

米澤こども家庭支援課長：それは、園、施設でまちまちだと思う。看板のようなものを出していただくところもあるし、園のホームページや施設のホームページなどで御案内しているところもあると思う。

松本議員：これだけの御相談があると、実際の保育業務に支障があるので、例えば人的な支援をお願いしたいというような要望は、園の方から上がってきているのか。

米澤こども家庭支援課長：この事業をされている園には、その点、人的ケアや物なども入っているので、もっとさらにといいものもあるでしょうけれども、現時点では、そのような要望はない。

松本議員：中には、子育てやいろんな悩みの相談を区役所に行かなければいけないのは、敷居が高いというような人もいます。もし、保護者の方が、気持ちの中にそういうものがあると、虐待につながったりしてしまうこともあるので、こういうグランマ保育園の取組というのをもっと幅広く、広報していくことも、ぜひ検討いただきたい。先ほど、おっしゃられたように、ある程度、保育園の中でPRをしているということと、区の広報として掲載していること。それ以外には、何か広報はされているのか。

米澤こども家庭支援課長：それが、主な2件になる。あとは、各園ごとにチラシを作って、区役所にも置いている。そういったものもあるかと思うが、今後、さらによりPRできるよう、よく知っていただいて、御利用いただけるように考えていきたい。

松本議員：園の方も業務の中で、いろいろ支障が出てきたり、難しい部分はあるかと思うけど、ぜひ、家庭で子育てをしていらっしゃる方の支援ということで、すごく有効な手立てだと思うので、ぜひ充実をお願いできればと思う。

米澤こども家庭支援課長：補足ですが、マップの方にもグランマ保育園の施設が全部が掲載してある。マップ自体は、赤ちゃんが産まれたときに、こんにちは赤ちゃん訪問員さんがこれを持って行って、お渡ししている。これを通じて、知っていただく機会をお出ししている。

松本議員：この事業は、中区だけで、他の区はやっていないのか。

米澤こども家庭支援課長：他の区については、すべてを承知しているわけではないが、私の知っている限りではこのような形態でやっている区はないと思う。（施設開放や相談業務など単独で実施している区はある。）

松本議員：他の区のお母さんが相談に来たらどうするのか。

米澤こども家庭支援課長：拒むものではない。区境の方などは相談されている方もいる。

竹前区長：私も園に行ったときに、オープンにしている、気軽に近所のお母さん方も入ってきて、読み聞かせに子どもを参加させたり、園に通わせてない方が参加するような雰囲気はある。口コミで、誘い合って来られる方も多い。

松本議員：お母さん方のメル友じゃないけど、フェイスブックなんかを活用して、お母さん方と情報のやりとりの中でも、こんなサービスあるよなんていうのは、いい媒体になるかと思う。ぜひ、そんな活用などもしていただけたらと思う。

あともう一点が、災害時のペット対策ということ。今のところ、同行避難ということで、避難所の中のゲージの中で保管と言ったらおかしいけれども、それが今、原則になっている。わがままに育ててしまったので、いざ、避難しなければいけない場合に、拠点の中のゲージには入れられない。そうすると、避難する場合、どうするかと考えていると、やっぱり車になってしまう。車だったらペットと一緒にそこにいればいい。ただ、その場合に、避難物資をどうするのかという課題はあるけれども。なかなか拠点には車で避難をすることはできないので、かねがね自分も考えていたけれども、やっぱりこれを避難の方法の一つとして、ペットのあるなしに関わらず、家族のプライベートとかを考えた場合に、車で避難したいという方も多々いらっしゃる。車での避難をどうやって受け入れるのか。車での避難はだめですというのではなく、ある程度、車で避難した場合には、どうすればよいのか。幸いにも、中区の場合は、埠頭がある。津波の心配がないという場合だが、沿岸部にかなり広大な車を置くスペースがあるかと思う。例えば、そういう場所を開放してもらって、車の避難が可能ですよ、と。そこでの避難物資は、どうするかということに関しては、例えば拠点でというのは、なかなか難しい。物資というものを誰が管理をして、そこに何回くらい車が通るかということはどうしたらよいのか。だから、新たな避難の方法をよく考える必要もあると思う。どういう見解をお持ちなのか。

竹前区長：前職の総務局総務部長のときに、危機管理室では、熊本地震の反省を踏まえて、車避難をどうするかを検討していた。車避難を認めるわけにはいか

ないが、現実上、車で避難される方がいろんな御事情で相当増えることは想定される。そのときに緊急車両を通さなければいけないところに、どんどん停められても困る。どこへ誘導するかということも含めて、対症療法は考えておく必要がある。そこまでは、検討していた。その後、危機管理室の方で、たぶん車避難のことも含めて検討すると議会でもお答えしているようなので、おそらく、その進化をする中で、中区の場合は、どうするのか。現実上、たぶん出てくる。そのときに、どこを開放してもらえるのか。公園を全部、車を置いていいとして、道路には停められないから、そこへ誘導しようというのは、たぶん現実的にはある。そこに停めた人に対する食料、物資をどう供給するのか。それは、たぶん今後の検討課題だと思う。

森山総務課長：少し趣旨から外れてしまうかもしれませんが、今回の横浜市防災計画の中で、車中泊の対応をどうしていくかが記載されている。それに対応した中区計画の対応をこれから区として、まとめていきたい。物資の支援については地域防災拠点を通じて得ることとなるが、車中泊の方に対する対応については、ご意見を含めいろんな視点で中区として考えていきたい。当面、字句修正にはなりますが早い時期に中区計画は修正させていただいて、対応を進めさせていただければと思う。

松本議員：横浜市全市的に考えると、なかなかスピード感を持ってというのは、難しくなると思う。災害は、いつ来るか分からない。そういう場合は、だめですと言っても、車で避難してしまう人は必ず出てくる。そこで、また混乱が起きるということは、どうなのだろうか。想定はできると思う。ぜひ、区の方針の中で、ある程度のことは考えておかないと、と思う。それを区の中だけでなく、一般の方々にも広報しないといけない。では、車で避難していいならどこでもいいのかいうと、また、おかしくなってしまう。こういう部分は提供できますよということ、ある程度、区民の皆様が分かるような方法で御検討いただければと思う。以上です。

福島議員：私からも数点、お伺いさせていただきたい。4ページの中区まちづくり推進事業の中で、街づくり、中区プラン改定業務の素案を策定して説明会をするということだが、この取組の仕方をぜひ工夫していただきたい。参加者がたくさんみえることが可能になるような発信の仕方、先ほど、ワールドカフェという考えも出ていたけど、最近、そういういろんな取り組み方があるようだけれども、工夫していただいて、より幅広い方が、参加していただけるような工夫をと思う。

落合区政推進課長：去年は、区役所で平日にやっしまい、参加者が非常に少なかった状況だった。今回は、11月に素案の案を発表して、今調整中ですが、12月に本牧地区センター、上台集会場、それから情報文化センターで、土日を中心に開催したいと思っている。また、会議の進め方についても、対面で聞くというよりは、一緒に確認し合っていけるようにしていきたいと思っている。

福島議員：ぜひとも、よろしくお願いいたします。

それから、25 ページの放置自転車対策だが、交通安全に関連して、自転車の安全のことを確認させていただきたいと思っている。中区内には、自転車専用の通行路の設置は、なかなかされてこないのかなという感じはしている。歩道の部分を走っていいという歩道もあり、それから水色の矢印の矢羽のラインを引くという動きもある。中区内の今後の、自転車走行可の道路整備の環境づくりについてと、安全教育というか安全計画。一方通行を逆走していいのか悪いのか、歩道を走るのか車道を走るのか、その判断の仕方を子どもと一緒にいるからいいとするのか、大人だけでも歩道を走っていいのか、細かいところでなかなか整理ができていない。非常に恐ろしい思いを多々されるとというのは、特に高齢者の方から聞いている。その辺の方針は、今年、どのようにしていくのか。

岡中土木事務所副所長：道路に関しては、道路局の方で、横浜市自転車総合計画というものを作っていて、その中で、いくつかの柱の中で、自転車走行空間の整備を進めていくことになっている。優先順位を考えた中で、今、道路局の方では、主に戸塚や、鶴見の方で進めているというのが、現状です。これまでの整備状況については、中区では、例えば、万国橋通りのところは整備をしてくれている。今年度は、みなと大通りについて、市役所とスタジアムの間の通りですが、そこについて道路局が今後の関内駅からの導線を意識した中で、自転車のことも検討していくというのが、取組の一つとしてある。

福島議員：はい、わかりました。啓発活動については、どうか。

真船地域振興課長：先生がおっしゃっていた細かい部分については、私どもも、きちんと確認をして、いろいろなかたちで啓発活動を進めるしかないと思っている。具体事例を出しながら、啓発活動を進めるというのは、一つの方法と思っているのですが、いろいろと教えていただければと思う。

福島議員：NHKのラジオでキャンペーンをやっている。特に、子どもを前後に乗せていい3人乗り自転車の注意事項について、ラジオで流しているのを聞いたことがある。お子さんを乗せて、朝急いで、お母さんが暴走している姿もあるので、とても危険だと思う。7月くらいまでは事故が多いそうだが、子どもの関係の方ともタイアップしていただいて、そういった啓発もお願いしたいと非常に思っている。以上で私の方からは終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

竹前区長：昨年、自転車事故については、中区も事故多発地域に指定されていた。でも、つい最近、解除にはなった。決して、減ったわけではなくて、他のところをもっと多くなったので、相対的に指定が外れたということ。自転車関係の取組についても、まだまだ課題は多いと思っている。ソフト、ハードの両方で少し対策をしていきたいということで、4警察の署長には、今まで以上に協力していくので、11年連続で高齢者の事故多発地帯に指定されているという状況

	<p>をしっかりと改善していきましようと話している。特に自転車事故は、そういう指定があったので、何かをしなければと思っていたら解除になったという状況ですので、決して力を抜いていい訳でない認識している。御意見がありましたら、いただきまして、一緒に進めていければと思っている。</p> <p>福島議員：議員団会議の方で、警察関係の方にも入ってもらような議題があってもいいかと思う。いろいろと申し上げたいこともあるかと思う。</p> <p>竹前区長：交通事故の問題は、全然、中区では解消されてないので、議題として、状況を説明していただきながら、意見交換ができるようなステージとして、そこで説明していただくようなかたちで考えるというのは、あり得るかもしれない。検討させていただければと思う。</p> <p>福島議員：あるいは、くらし安全のところでも私たちもさっと帰らずに、議論に入らせていただくとか、そういうチャンスがあった方がいいのかと思う。</p>
備 考	